散歩道

疾走と散策

岩槻邦男

東京大学の植物園にいた頃，年に1度の理学部の懇親会での挨拶で，理学部の構成員が毎週1回は植物園を散策するようになれば，ノーベル賞級の研究が続々出てくるでしょう，と申し上げたことがあった．当時の実感でもあったし，今もますますその感が強くなっている．

ヨーロッパなどの研究者は，日ごろは集中してよく働くが，秋晴れの朝など，こんな良い日はもったいないから外へ出てくる，と突然休みを取って郊外への散策を選ぶことがある．こころに句読点をおく余裕とでもいうべきか．

近頃大学の構成員が頓にいそがしい日々を送るようになっている．研究，教育でいそがしいのなら理解できるが，直接研究，教育に関係ないと思えるような用件で時間をとることも少なくないようである．私が国立大学にいた最後の頃もずいぶんいそがしい思いをしたが，最近それがますます激しくなっているように仄聞する．国立大学から法人への移行期で，特別の時期だから，という説明も聞こえるが，本当にそうだろうかと首をひねるような事例もないわけではない．

現代の大学は，実験室で研究に専念し，講義や実習などで教育に携わるだけで十分といえる機関だとはいえない．研究の成果を世に問う他，研究活動にともなって得た経験と知見を学生向けの教育に生かすだけでは，今では，大学の教員の仕事を成し遂げているとはいえないからである．

社会のための科学，といういい方が世間に通用するようになっている．しかし，同じ言葉から得る内容は一律とはいえず，人によってこの言葉の解釈はさまざまなようである．いちばん気楽な解釈は，すぐに社会の便益に貢献する科学が重視されるべきものである，というものである．しかし，科学が解明する原理が，いつでもすぐに物質的な便益につながるものでないことは常識でもある．

何十年か前に私が植物分類学を専攻しようとした時，なぜそんな役にも立たない分野を選ぶのかと咎めるようにおっしゃった先生方もあった．しかし，時間がたつと，生物多様性が社会の注目を浴びるようになり，否定的だった人たちまで，この分野の研究者との共同研究を課題に選ぶようになってきた．目先しか見ていなかったら役にも立たないような研究課題が，科学全体のレベルを高めるために不可欠でもあることが，毎日をいそがしく過ごしている人の目にはつい見えなくなっていることがあるのだろう．

その時の社会が否定しても，地球はやっぱり動くのである．その意味で，社会に科学的に確実な視点を提示することは，科学の社会への貢献としてもっとも肝要なことである．残念ながら，日本人一般の科学的知見は先進国中でもずいぶん遅れているといわざるを得

ない．ハウツーもので得た知識が，科学的知見であるように取り違えられていることも，特徴的な事実かもしれない．科学的思考力の欠如については，子供たちの理科離れと呼ばれる現象で典型的に顕現しているものでもあるだろう．

その意味では，科学者が象牙の塔に閉じこもって自分だけが科学的好奇心を満足させていてよい時代ではない．知的好奇心の神髄とでもいうべき科学するよろこびを，それを満喫している科学者こそが社会に提供し，万人と共有すべきだろう．知的な生き物である人が，知的なよろこびを求めるという原点に立てば，今何が必要で何が不要かが見えてくるに違いない．よく分かってもいない事実に基づいて，痩せたい，美しくなりたい，儲けたいと念じても，賭けのような行為に手を出すことになるのが落ちである．

科学の発展のためだけに集中し，邁進して成果をあげ，それが結局は社会に貢献してきたという過去の科学者の生活が，今そのまま営まれると期待できるものではない．科学は万人のものであることが期待され，科学を万人のものとする行動が科学者に求められてもいる．そのために，全力疾走の途中で，フッと息をついて科学の神髄を語ることが，優れた科学者にこそ期待されている．物質的な豊かさに直接つながることよりも，知的好奇心を刺激することが，知的生物である人間社会にとってもっとも強く期待されるものなのだろう．

自分の専門分野の課題に向かって疾走するだけではやがて息が切れることもあるだろう．こころにゆとりがないままに暴走することがないように，科学者にとって何が基本かを考えるのも，ひとときの散策の機会をもってこそである．超特急のレールの上だけでなく，散歩道もまた科学者が進む大切な路線であってほしいものである．

いわつき・くにお
放送大学 教授